

## 《平成 14 年まき網漁業の動向》

今月は島根県のまき網漁業について、平成 14 年の状況について振り返ります。

### 経営体さらに減少！

図 1 に県内の中型まき網経営体数の推移を示します。昭和 44 年の 96 ヶ統をピークに減少傾向にあります。ここ数年、出雲・隠岐地区を中心として減船が相次ぎ、平成 14 年 12 月末には 20 ヶ統となっています。

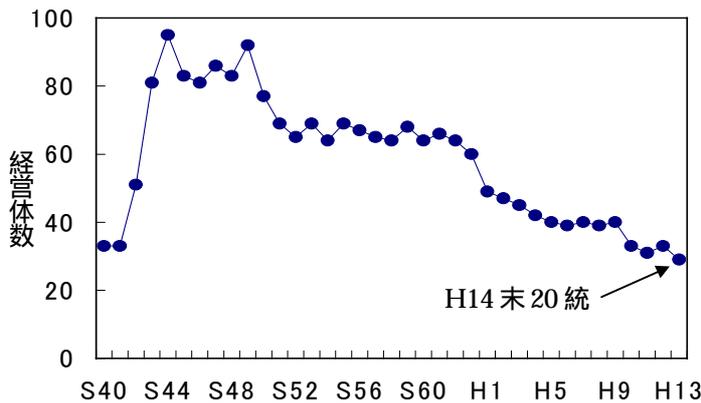


図 1 島根県の中型まき網の経営体数の推移

次に、最近の漁獲量を見えます(図 2)。平成 14 年の総漁獲量は約 5 万 2 千トン、総水揚金額は約 50 億円でした。漁獲量は平年(過去 4 年平均)の 58%、前年の 114%と前年をやや上回ったものの平年を大きく下回りました。水揚金額は平年の 73%、前年の 99%となっています。月別の漁獲状況ですが、近年は 2~3 月のカタクチイワシと 9~11 月のマアジ、サバ類と、春と秋の 2 つのピークが見られるパターンなのですが、ここ 2 年は春のカタクチイワシの不振で、春のピークがなくなりつつあります。平成 14 年も春漁はまったく振るわず、低迷していましたが、秋漁は、マアジ、カタクチイワシ、サバ類が好調で、9、10 月は漁船隻数が減少したにもかかわらず、平年を上回る漁がありました。しかし、11 月になると急激に漁獲量は減少しています。11 月にはマアジが極端に捕れなくなり、平年の 5 分の 1 まで落ち込みましたが、12 月には平年並みまで回復しています。どうして 11 月に捕れなくなったものが 12 月に再び捕れたのか？この時期のマアジは当歳魚が主体で海底に密着しているといわれていますが、着底期以降、マアジがどのような回遊・移動をするのかについては、今のところ明らかにされていません。

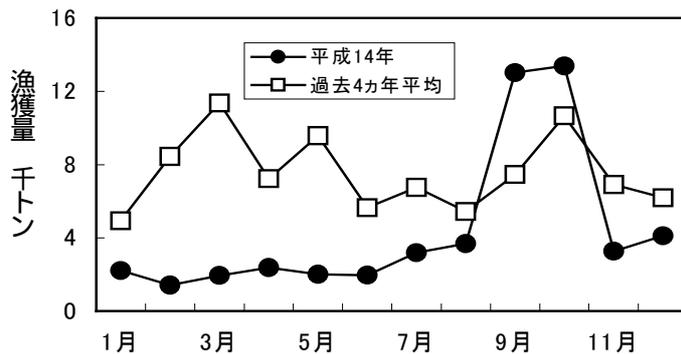


図 2 島根県の中型まき網の月別漁獲量

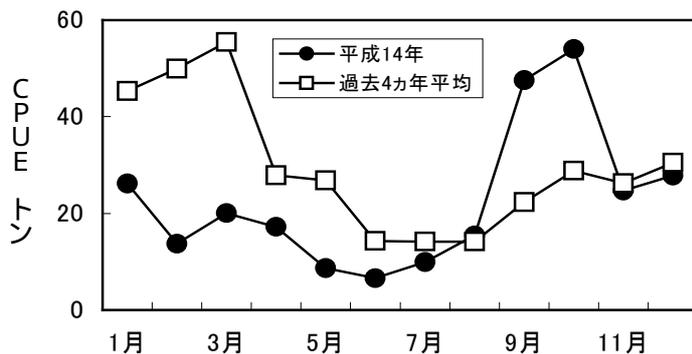


図 3 島根県の中型まき網による CPUE (1日1隻当たり漁獲量) の変化

示します。CPUE は、漁獲量の変動が、出漁日数や稼働隻数などの影響なのか、資源そのものの増減が影響しているのかを見るために 1 日 1 隻当たりの漁獲量で基準化しています。やはり 1~6 月において、平成 14 年は低調に推移しています。このことから、この期間の漁獲の低迷はカタクチイワシやマアジなどの来遊資源そのものが少なかったと判断されます。しかし、9~10 月は平年を上回る値を示しており、この時期、漁獲の中心であった、マアジ、カタクチイワシ、サバ類がたくさんいたものと思われる。

## 魚種別漁獲量

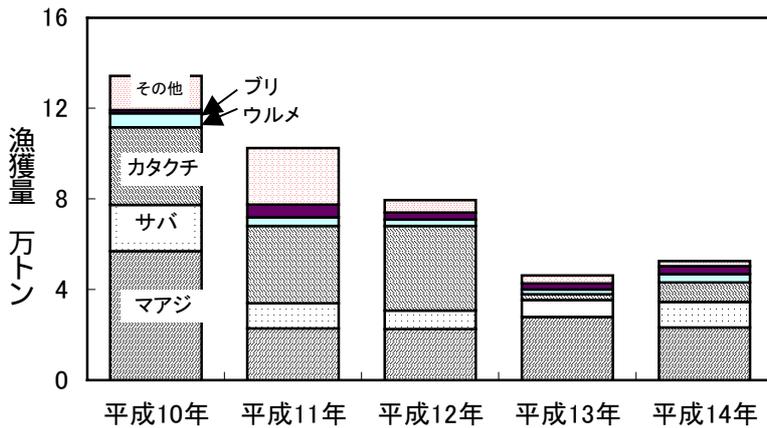


図4 島根県の中型まき網の魚種別漁獲量

いたのですが、平成14年は大きく減少する魚種が無かったことが微増の原因となっています。中でもカタクチイワシは、主漁期である2~3月にはまったく振るわなかったものの、秋に漁が見られ、今後の漁に期待しているところです。

### 隠岐地区やや増加！出雲・石見地区減少！

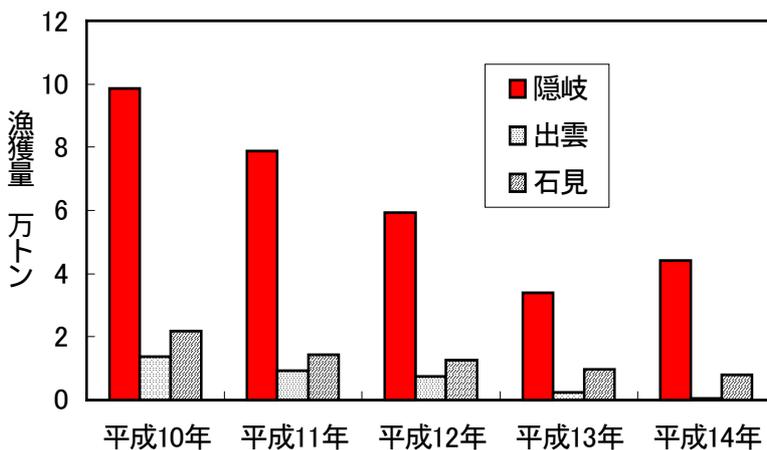


図5 島根県の中型まき網の所属船団別漁獲量

図4に魚種別の漁獲量を示しました。平成14年の上位にランキングされた主要魚種を表示しています。総漁獲量は平成13年までは直線的に減少していましたが、平成14年はやや持ち直しています。これは漁獲の主体であるマアジは前年に比べやや減少したものの、サバ類、カタクチイワシ、ウルメイワシ、ブリ類などその他の主要魚種が少しずつ増加したためです。近年の傾向として、毎年何らかの魚種が激減し、直線的に漁獲量が減少して

図5に所属船団別の漁獲量を示します。県内を隠岐地区、出雲地区、石見地区の3つに区分して、5年間の漁獲状況を示しました。隠岐地区は西郷・浦郷船団、出雲地区は美保関・恵曇船団、石見地区は五十猛・浜田・益田船団を含んでいます。隠岐地区は、県全体の漁獲動向と同じように平成13年までは減少し、平成14年はやや増加するという傾向を示しています。しかし、隠岐地区の船団は、石見海域での漁獲量が多く、島根県全体の漁場で見ると石見海域でのマアジやマサバの占める割合が高くなっています。

### 今後のまき網漁業

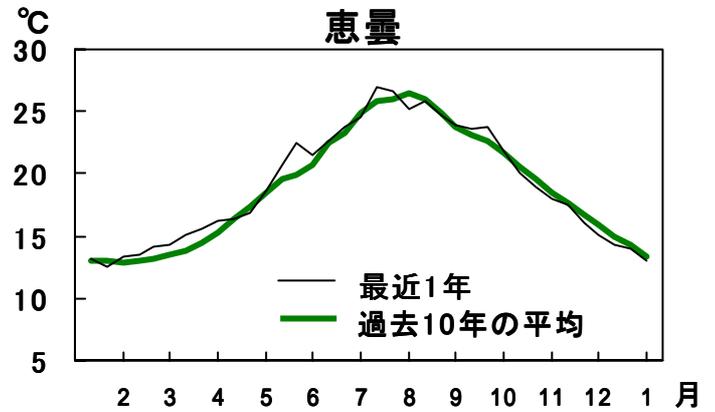
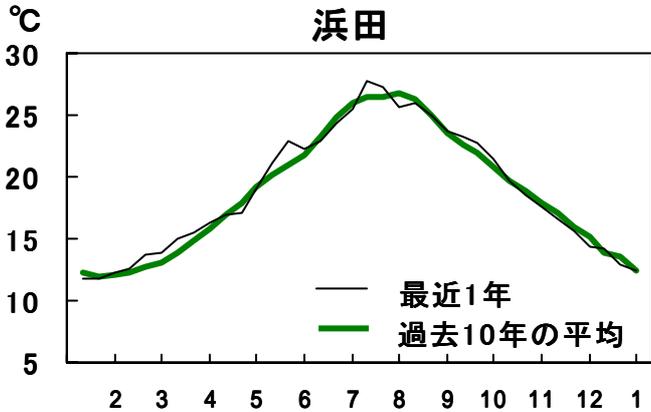
今後のまき網漁業ですが、平成14年に恵曇地区、美保関地区、浜田地区で減船が行われ、漁船隻数は大きく減少しました。資源の来遊状況が悪ければ経営体数はさらに減少する可能性もあります。平成14年の秋以降のCPUEを見ると資源の減少傾向は一応下げ止まった感がありますが、今後も要注意です。

主要魚種の動向について予測をしてみます。**マアジ**ですが、昨年6月に試験場が実施したマアジ当歳魚の分布調査では、平成13年の発生量にはおよばなかったものの、近年では高い発生水準にあると判断されました。一方、まき網では例年、冬季のマアジ漁は減少しますが、今期は少ないながらも堅調な漁が続いています。また、沖合底びき網や小型底びき網などでマアジの当歳魚が多く漁獲されています。このことから、今後は1歳魚中心に漁があるものと推測されますが、発生量は平成13年におよばないため、例年並の漁獲にとどまるものと思われる。**カタクチイワシ**ですが、山陰沖では2~3月にかけて活発な漁があるのですが、昨年、一昨年と極めて低調に推移しています。2月17日現在、カタクチイワシ漁はまだ活発化していませんが、昨年夏以降、本県沿岸域で当歳魚が大量に発生しているという情報があったことから、比較的発生量は多いのではないかと思います。**マサバ**は平成13年に続き、当歳魚の来遊量が近年では多いと考えられ、3~4月にかけて小型のものを中心にややまとまった漁が期待されます。**その他ウルメイワシ**などは資源水準が低く、まとまった漁獲は見込めそうにありません。

## 《 1月の海況 》

1月	月平均	平年差	評価
浜田	13.1	-0.1	平年並み
恵曇	13.8	-0.4	平年並み

1月の月平均水温は12月に比べ浜田で2.4、恵曇では2.5 下降しました。浜田、恵曇とも「平年並み」の水温経過となりました。



島根・鳥取県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(2/3~2/4)によると、各層の水温は、表層(0m)が9.4~13.2(平年差は-1.2~-0.3)、中層(50m)が10.2~13.5(平年差は-0.9~+0.4)、底層(100m)が5.5~13.2(平年差は+2.4~+4.3)となっていました。昨年12月上旬に比べると沿岸域の水温は表層~底層まで約5 下降しました。沿岸から隠岐諸島にかけての広い範囲を、水温11 以上の水塊が覆っていますが、底層では冷水域が隠岐諸島の西北西約80 マイルを中心に南東方向に張り出すようにみられました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「やや低め」、中層では「やや低め~平年並み」、底層では「やや高め」となりました。

## 《 1月の漁況 》

### 【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はサバ類・マアジ主体に1,004 トン、総水揚金額は4,000 万円でした。1 統当りの漁獲量は335 トンで、平年(過去5 ヶ年平均)および前年の2 倍となりました。水揚金額は1,340 万円で、平年の112%、前年の83%となりました。西郷では、サバ類・ブリ・マアジ主体に総漁獲量779 トン、総水揚金額は1 億2,800 万円でした。1 統当りの漁獲量は111 トンで、平年の23%、前年の60%となりました。水揚金額は1,840 万円で平年の49%、前年の87%となりました。浦郷ではサバ類・ウルメイワシ主体に総漁獲量256 トン、総水揚金額は1,600 万円でした。1 統当りの漁獲量は64 トンで、平年の45%、前年の69%となりました。水揚金額は400 万円で平年の36%、前年の54%となりました。西部海域を中心にサバ類が好調ですが、小型魚が主体であるため金額は伸びず、全般に低調な漁模様となりました。

### 【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5 トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に458 トンで、平年(過去5 ヶ年平均)の174%、前年の48%と、豊漁だった前年にはおよばないもの好調でした。一方、西郷のイカ釣船(5 トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に35 トンで、平年の141%、前年の128%となっています。浜田に水揚げされたスルメイカは20 入りが主体となっています。

### 【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は361 トン、総水揚金額は1 億6,305 万円、1 統当たり漁獲量は51.5 トン(前年比139%、平年比110%)、水揚金額は2,329 万円(前年比150%、平年比108%)でした。漁獲の中心はソウハチ(前年比121%)、ケンサキイカ(前年比319%)でした。

恵曇港の総漁獲量は140トン、総水揚金額は7,955万円、1統当たり漁獲量は35.0トン（前年比140%、前年比99%）、水揚金額は1,989万円（前年比124%、前年比97%）でした。漁獲の中心はアカガレイ（前年比173%）、ソウハチ（前年比91%）でした。

### 【小型底びき網漁業】

大田市・和江両漁協では、漁獲量・水揚金額ともに前年を17～38%上回りました。また、1日1隻当たりの漁獲量・水揚金額も前年を11～23%上回り、好調に推移しました。盛漁期を迎えたソウハチがまとまって漁獲されており、漁獲の主体となっています。この他、キダイ（小型魚が主体）や、近年低調であったアカガレイが好調に推移しています。

### 【定置網漁業】

各地区とも漁獲量・水揚金額は前年と平年を大きく下回っています。県東部ではブリ、マアジ、カワハギ類、スルメイカ、サンマが主体ですが、ブリは前年の4割、アジは7割の漁獲量となっています。県東部ではヤリイカ主体で、その他カワハギ類、スズキ、ブリ、ケンサイカ、マアジが漁獲されています。隠岐地区ではスルメイカ、メダイ、マアジ、ヤリイカが主体となっています。スルメイカは前年の3割の漁獲量と低調でしたが、メダイは前年の約13倍の漁獲量となっています。

### 【釣・縄】

各地区とも、漁獲量、水揚金額は前年を上回り、県東部では前年の1.2倍、県西部と隠岐では前年の2倍近くの漁獲量となっています。県東部ではブリ、ヤリイカ、サワラ類、ヒラマサ、メダイが主体で、ヒラマサは前年の約10倍の漁獲量となっています。県西部はメダイ、ヒラマサ、ブリ、アマダイが主体となっています。隠岐ではメダイ、スルメイカ、キダイ、ヤリイカが主体となっており、スルメイカは前年の約3倍の漁獲量となっています。その他では各地区でメダイが前年の約2倍、ヤリイカが2～4倍の漁獲量となっています。

## 漁獲統計

平成 15年1月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航 海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	14	サバ類・マアジ	71.7ト	1,004ト
	西郷	31	サバ類・ブリ・マアジ	25.1ト	779ト
	浦郷	11	サバ類・ウルメイワシ	23.3ト	256ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	350	スルメイカ	1,308kg	458ト
	西郷	130	スルメイカ	269kg	35ト
沖底	浜田	31	ソウハチ・ケンサキイカ	11.6ト	361ト
	恵曇	29	アカガレイ・ソウハチ	4.8ト	140ト
小底	和江	253	ソウハチ	668kg	169ト
	大田市	174	ソウハチ・ニギス	494kg	86ト
定置網	浜田	7	ヤリイカ・スズキ・カワハギ類	104.3kg	0.7ト
	美保関	110	マアジ・カワハギ類・スズキ	232.0kg	25.5ト
	浦郷	55	スルメイカ・メダイ・マアジ	211.8kg	11.6ト
釣・縄	浜田	543	メダイ、ヒラマサ、ブリ	26.7kg	14.5ト
	五十猛	189	メダイ、ヒラマサ、アマダイ	26.1kg	4.9ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。

定置網（浜田）は1ヶ統のデータ。